

## (公社) 日本給食サーブス協会会長賞

### 『給食センターを見学して』

愛知県豊橋市立多米小学校 四年一組 男子 中神 怜大

ぼくは、夏休みに、豊橋市北部学校給食共同調理場で行われた、親子フードカルチャ― in サマーにさん加しました。

ぼくは、小さいころ、食べられないぐらい苦手な物がいっぱいありました。肉のあぶら身、きのこ類、ナス、ピーマン、トマト：やさいのほとんどが、食べたくありませんでした。だから、ほいくえんのころも、小学生になっても、給食の時間が一番、きらいでした。

だけど、学校で先生や友達がぼくの苦手な物をおいしそうに食べているのをみて、ちよつと食べてみようかなという気持ちになりました。

食べてみると、のみこめない物もあったけど、おいしいと、思える物もありました。それから食べれる物がふえてきて、全部、食べられる日がふえてきました。

そんな給食が、どんなふうに作られているか、しりたくなつたので、この夏休みに、ぼくたちが食べている、給食が作られている、北部学校給食共同調理場へ行きました。

給食センターに着いて、まず一番最初に思ったことは、建て物が大きくて、すごくきれいでした。中もとでもきれいでした。

給食のできるまでの話を聞きました。まず食材に、ゴミや虫が入らないくふうがされていきました。まどが、あかないようになっていたり、エアカーテンなどがあつたり、人の目でも、しつかりてんけんしてくれていて、安心しました。調理員さんの服には、ポケットが一つもなくて、自分の物や必要のない物を持って入れないようになつていて、ぼくたちの口の中に入る物にこんなに気を付けてくれていて、うれしかったです。

給食の始まりは、約60年前、みそしるだけの給食だったそうです。それが今では、一日約八千二百人分の給食を作っているそうです。

調理場の中には、カマは、何こもあつて、一つのカマでは、約千人分の給食ができるそうです。そのカマで、ぼくたちが昼に食べるカレーを作ってくれました。千人分のカマの中に百人分のカレーしかなかったので、少ないと思いましたが、カレーをまぜるしゃもじなどの調理道具は、ぼくの顔よりも大きく、ぼくの身長よりも長くて、びっくりしました。さわらせてもらおうと、すごく重くて、力もいっぱい使ってくれていることもしりました。

センターの中には、ゴミをへらしたり、においをへらしたり、地球にやさしいこともしていました。

今回見学させてもらつて、今までしらなかつたことがわかつたり、ぼくたちの給食にこんなたくさんの方が一生けん命作ってくれているのに、給食の時間が一番きらいといつてごめんなさいと思えました。給食をしつかり食べて、強くて大きい人になります。いつも給食を作ってくれて、ありがとうございます。